

広報 しまだい

島根大学広報誌
Shimadai Magazine
March 2009
Vol. 4



特集

地域に飛び出し
活動する学生たち





登録証授与式出席者

TOPICS
01

全国初!! 附属病院を含む全学で
ISO14001の認証を取得

島根大学は、昨年の3月14日付で医学部及び医学部附属病院を含む全学でのISO14001認証の取得を果たしました。附属病院という大きな環境負荷のある活動範囲を含め、大学全体としてISO14001の認証取得は、国公立大学の中でも全国初となり、島根大学の活動が価値ある取り組みであると評価された証となるものです。

出雲キャンパスで行われた標記登録証授与式では、審査機関である(財)日本品質保証機構(JQA) 松野理事から学長及び病院長に対し、和文、英文の登録証が授与されました。その後、松野理事よりお祝いの言葉があり、病院長からの経緯説明、そして学長からの認証に対するお礼の言葉があり、授与

Shimadai Magazine
November 2009
Vol. 4
しまだい

CONTENTS

トピックス 2

〈特集〉
地域に飛び出し
活動する学生たち 8

大学改革GP等の採択状況 12

受賞・表彰者紹介 14

〈連載〉
●公開講座・公開授業 16
●研究紹介 18

報道された島根大学 23

島根大学支援基金寄附者一覧 25

同窓会から 28

お知らせ 28

TOPICS
02

山陰合同銀行グループ3社と
連携協定を締結

式が終了しました。
島根大学は、2006年3月に松江キャンパスにおいてISO14001を認証取得した後、毎年範囲を拡大し、昨年3月、全国に先駆けて医学部

島根大学は、山陰合同銀行グループ3社と包括連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、大学の知的資源と金融グループのネットワークを組み合わせ、地域の発展につなげていくことを目的としているもので、本田雄一島根大学長、古瀬誠山陰合同銀行頭取並びに山陰経済経営研究所、ごうぎんキャピタルの両社社長が出席して調印式が行われ、協定書を取り交わしました。

調印式で本田学長は、「法人化で地

及び医学部附属病院を含む全学でのISO14001の認証取得を果たしたものであり、今後も環境に配慮した活動に努めることとしています。

域密着の運営、研究が求められている。締結を機に力を一層合わせて地域発展に結び付けたい」と挨拶。また、山陰合同銀行の古瀬頭取は、「提携の目的は地域間競争に打ち勝つこと。戦略的に役割分担しながら、地元産業の活性化などに寄与したい」と挨拶されました。

協力する分野は、企業との共同研究やベンチャー企業への支援、新事業の進出支援、教育・文化事業等の振興、アジアを中心とした国際交流などで、特に学内での研究成果の事業化や起業



表紙写真

しまね観光大使に選ばれた島根大学法文学部3年の小川千春さん(11ページに関連記事掲載)

家育成に力を入れることとし、大学の研究機能や人的資源を、銀行グループが持つ情報や地域分析力、投資業務と結び付けていくこととしています。

TOPICS 03
**島根県大学・高等専門学校
図書館協議会を設立**

島根大学附属図書館は、島根県立大学及び松江高等専門学校の各図書館と島根県内の大学及び高等専門学校図書館の充実・発展に資することを目的として、島根県大学・高等専門学校図書館協議会を設立しました。

この協議会の協定書調印式には、大学の平川正人附属図書館長、島根県立大学の小林博メディアセンター長、松江工業高等専門学校の岡本信之図書館長が出席し、それぞれ協定書に調印しました。

この協議会は、島根大学、島根県立大学及び松江工業高等専門学校の図書館・メディアセンターが会員館となり、本学の松江、出雲各キャンパス、島根県立大学の浜田、松江、出雲各キャンパスの図書館、そして松江高専の図書

大学と金融機関の2社協定はめずらしくありませんが、大学が企業グループとの間で協定を結ぶのは全国的にも少ないものです。

館・メディアセンターの6館による有機的な図書館ネットワークを構築し、従来の単独館ではなし得なかったサービスと事業の創造を目指しています。



協定書に調印後、握手する平川館長(中央)ら

TOPICS 04
「指導教員と保護者との個別面談」を実施

島根大学の法文学部と総合理工学部は、松江市内の「くにびきメッセ」で「指導教員と保護者との個別面談」を実施しました。個別面談には、全国から両学部合わせて636家族、935名の参加者があり、学業成績、学生生活、就職、進学などについて、140名の

教員との間で面談が行われました。

この個別面談は、両学部の前身である文理学部の時代から約40年にわたり両学部後援会の協力を得て実施されているもので、希望によっては学生を含めた3者面談も実施されるなど、国立大学では非常に珍しい企画となっています。

ます。保護者の方からは、「大学という、たくさんの方がいてその中の一人という存在が小さく、把握されにくいというイメージがあるが、わが子の様子を丁寧に伝えていただいて安心しました。」「卒業、就職あるいは進学について先生のお話がとても親身で、丁寧でよく分かり、安心しました。」「子どものこともよく知っていたいただいて、『スケールメリット』を実感しました。」「など、大変好評をいただきました。毎年参加される保護者もありません。

TOPICS 05
島根県経済団体との懇談会を開催

島根大学は、松江市内のホテルにおいて「島根県経済団体と島根大学との懇談会」を昨年に引き続き開催しました。この懇談会は、島根大学が地元経済界から意見を聞き、大学の運営に活



個別面談(3者面談)の様子



懇談会であいさつする本田学長

かすとともに、協力・協働関係を推進していくため企画したもので、経済団体からは、島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会及び島根県経済同友会の代表者12名に参加していただきました。懇談会では、本田学長が島根大学の現状等について説明し、その後、各経済団体の代表から意見・要望等が述べられ、「学力やスキルのみにとられない、社会人としての総合的な能力のある学生を養成して欲しい。」などの要望がありました。

島根大学では、今後も定期的な同様の懇談会を開催することとし、この懇談会の成果を、今後の島根大学の教育・社会貢献活動等に役立てて行くこととしています。

TOPICS
06

ユビキタス特区 「島根ユビキタスプロジェクト」始動!

プロジェクト推進協議会を 設立し、実証実験を開始

本学も主要メンバーとして参加しているユビキタス特区事業「島根ユビキタスプロジェクト」が、9月11日に推進組織である「島根ユビキタスプロジェクト推進協議会」を設立し、実証実験を開始しました。

ユビキタス特区は、総務省が推進している事業で、世界最先端のICTサービスを開発・実証できる環境を整備するとともに、他国のユビキタス姉



本田学長、溝口知事など関係者のスイッチオンでスタート

妹特区との連携などにより、日本のイニシアティブによる国際展開可能な「新たなモデル」を確立するとともに、豊かな国民生活実現に寄与することを目的とし、今年1月、本学松江キャンパス周辺を主な実験フィールドとする島根ユビキタスプロジェクトも全国22か所の特区の一つとして指定されたものです。

島根ユビキタスプロジェクトは、産学公民（産業界、大学、地元自治体、地域商店街等）が連携し、電波の未使用の周波数帯を活用して、学生向け情報、行政情報、観光情報、地域商店街情報等の地域に密着したさまざまな情報や番組を総理工学部3号館屋上とテクノアークしまねに設置したアンテナから国際的に普及が進んでいる通信技術Media FLOを利用して配信し、複数の新しい技術やサービスの実験を他に先駆けて実施し、新しいビジネスモデルの構築、島根県に高い競争力を持つICT産業活性化基盤の確立等を指すものです。

昨年の1月25日に特区の指定を受けた後、関係者が集まり、送信設備の設置や電波送信のための実験試験局の免許交付申請、プロジェクト推進協議会設立等の準備を行ってきましたが、8月27日に実験試験局の本免許が総務省中国総合通信局から交付されたことから、9月11日プロジェクト推進協議会設立総会を開催し、実証実験を開始する運びとなったものです。

TOPICS
07

地元企業との懇談会を実施

島根大学と地元求人企業との懇談会を、9月26日に松江キャンパスの学生会館において開催しました。これは、大学生採用を予定する山陰地域の企業



全体討議の様子

と大学側が相互に情報交換し、学生の採用・就職を円滑にすることを目的に開催されたもので、山陰地域の企業で本学学生を採用、本学への求人申込み及び本学学生のインターンシップ受入れがあった企業60社に参加いただきました。懇談会では来賓として社団法人島根県経営者協会事務局長の錦織秀行氏からご挨拶をいただき、その後、本田学長の「島根大学法人化後の歩み」と題した講演が行われました。

引き続き行われた全体討議では、学長、副学長、各学部長及び各学部就職委員の出席のもと、企業側からの要望や本学の取組みなどについての意見交換が行われたほか、地元就職率向上に向けた本学キャリアセンターの取組みが紹介されるなど、相互理解のための情報交換が行われ、有意義な懇談会となりました。

TOPICS
08

デジタルアーカイブシステムの運用を開始!

島根大学附属図書館では、「附属図書館研究開発室」を中心に「デジタルアーカイブシステム」の構築を進めて

いきましたが、このほどシステムが完成し、一定量のデジタルコンテンツを収集・蓄積できたため、本田学長をはじめ各理事及び各専門分野の研究者を招き披露式を行い運用を開始しました。（平成20年9月末現在：古文書・貴重資料等1,100件/約50,000コ

マ収録

本システムは、学内外の歴史的・学術的な貴重資料などの大容量デジタル画像をメタデータとともに収集・蓄積・保存し、大学や地域社会における調査、研究、教育活動の素材として提供するものです。従来型のデジタル公開に加え、特に資料調査、研究プロセスにおける画像データの利用時にきめ細かな利用権を制御することで利用の幅を広

げるものです。

システムは、メタデータ検索サーバ、デジタル画像サーバ、バックアップ・ストレージなどから構成され、大容量のデータ表示が可能な画像ソフトやネットワークを軽減する工夫もおこなっています。本システムによる調査・研究過程や教育現場への画像配信機能に加えて、研究成果公開用の「島根大学学術情報リポジトリ(SWAN)」を連携させることで、大学の教育・研究機能を総合的に支援することが可能となります。

島根大学による、公開ステータス管理やユーザー認証を含めた貴重な地域資料アーカイブの管理・運用システムは、大学図書館としては全国でも先駆的な取り組みであり、地域社会の貴重な学術データバンクとして資

料記録の永続的保存や、グループ調査や共同研究に威力を発揮し、今後、コンテンツの蓄積・充実とともに多様な利活用が期待されます。



デジタルアーカイブの一例



デジタルアーカイブ披露式で担当者の説明を聞く出席者

TOPICS 09

男女共同参画推進室がオープン!

島根大学は、より個性輝く、活力に満ちた大学となるために、また、学問の府としての社会的責務を果たすために、率先して男女共同参画社会の実現をめざしていますが、10月1日から「男女共同参画推進室」を教育学部棟G階に開設し、業務を開始しました。

10月22日には、本田学長、高安室長ほか関係者が出席して開室式を行いました。式では、本田学長から「男女共同参画推進室の今後の成果に期待する。」との挨拶があり、また、高安室長

男女参画推進室の看板掲

TOPICS 10

医師確保等について 島根県と意見交換会を開催

からは「男女共同参画の全学的な環境づくり」に努めるとともに、大学から地域への発信も行いたい。」と今後の抱負が述べられました。その後、男女共同参画推進室の看板を掲げました。

本学では、平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムに、「地方から開く女性研究者の未来 in 島根」プログラムが採択されたほか、医学部では、

島根大学医学部と島根県は、10月27日、県内の医師確保等についての意見交換会を開催し、島根県側から溝口島根県知事他関係者10名が、島根大学側からは山本理事、小林病院院長、木下医学部長他医学部の主要な関係者15名が出席しました。

意見交換会では、冒頭、溝口島根県知事より小林病院院長及び木下医学部長に、県内僻地における医師の確保に関する要望書が手渡されました。その後、島根県側から、深刻化する医師不足に関するテーマが提示され、大学側からは、これらの問題を解決する一つの方策として、大学院修士課程に地域医療コーディネーター養成コースを設置する旨の説明を行いました。同コースは、地域で働く医師や看護師のメンタル面などの相談に乗るコーディネーターを養成するもので、離職防止などの後押しをするものです。

また、来年度の入試から緊急医師確保対策と医学部医学科の定員増によ

平成19年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」のテーマ1「女性医師・看護師の臨床現場定着及び復帰支援」に「新しいキャリア継続モデル事業——しなやかな女性医療職をめざして——」事業が採択されており、これらの事業により女性研究者、女性医療職への支援を推進しています。

り、定員が10名増員となり、今後地域で働く医師の確保に注目が集まるところです。

なお、双方のトップが集まる意見交換会は今回が初めてで、今後は年2回程度、地域医療等に関係する課題について意見交換を行うこととなっています。



意見交換会で説明する木下医学部長

平成20年度前期「学生表彰」を実施

平成20年度前期の「学生表彰」を、11月17日に出雲キャンパスで、11月25日には松江キャンパスで実施しました。学術研究で特に顕著な業績を挙げたと認められる者及び課外活動で特に優秀な成績を収め、課外活動の振興に功績があったと認められる者等について、表彰しました。

表彰者は以下のとおり。

■学術研究において、特に顕著な業績を挙げたと認められる者

第16回日本金属学会・日本鉄鋼協会奨学賞受賞

蘆田 茉希(総合理工学研究科博士課程前期1年)

第14回中国四国支部分析化学若手セミナー支部長賞受賞

題目：砂泥(有明海)に対する

Free-IHSの定量について

菅原 庄吾(総合理工学研究科博士課程前期2年)

Journal of Mineralogical and

Petrological Sciences 論文投稿及び

第53回西日本東南極セミナー口頭発表等

濱田 麻希(総合理工学研究科博士課程前期2年)

日本行動計量学会岡山地域部会第25回

研究会・第125回岡山統計研究会優秀賞受賞

題目：セミパラメトリック平滑化

におけるモデル選択について

勘場 大(総合理工学研究科博士課程前期1年)

第60回西日本医科学生総合体育大会

■課外活動において、特に優秀な成績を収め、課外活動の振興に功績があったと認められる者又は団体

〈ギター部〉

第35回日本ギターコンクール大学生部

門銅賞受賞

帖佐 彰也(法文学部3年)

〈ピリヤード〉(個人)

JAPA第48期名人戦名人位

持永 隼史(法文学部4年)

〈医学部剣道部〉

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子団体優勝

高岡 幸(医学部医学科6年)

田中 慎一(医学部医学科6年)

鈴木 将太(医学部医学科5年)

近藤 洋司(医学部医学科4年)

板倉 久和(医学部医学科4年)

笠原 善弥(医学部医学科4年)

鈴木 一如(医学部医学科1年)

女子団体優勝

反町 秀美(医学部医学科5年)

本田 秀子(医学部医学科5年)

村上 智美(医学部医学科2年)

第11回西日本コメディカル剣道大会

女子団体優勝

岡本 理絵(医学部看護学科3年)

薦田沙紀子(医学部看護学科2年)

佐伯 優(医学部看護学科2年)

米田 愛(医学部看護学科2年)

松島 朋美(医学部看護学科1年)

〈医学部ソフトテニス部〉

第42回全日本医科学生体育大会王座決定戦

男子団体準優勝

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子団体第3位

末廣 聡士

松平 亮介(医学部医学科6年)

中西 宣太

蔵垣内 敬(医学部医学科5年)

辻前 正弘(医学部医学科4年)

海野 健斗(医学部医学科3年)

佐藤 陽隆(医学部医学科3年)

杉原 一暢(医学部医学科3年)

高橋 悠(医学部医学科3年)

内田 有紀(医学部医学科2年)



写真上：松江キャンパス表彰者 写真下：出雲キャンパス表彰者

第60回西日本医科学生総合体育大会

女子4×100mリレー第3位

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×400

mリレー入賞もあり(第60回

西日本医科学生総合体育大会

女子3000m第2位、女子

1500m第3位)

野村 晃子(医学部医学科3年)

門脇 円(医学部医学科2年)

古川 詩乃(医学部医学科1年)

女子4×400mリレー第3位

舟本 有里(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり(第60回西日

本医科学生総合体育大会女子

3000m第3位)

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×100

0

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子3000m第2位、女子

1500m第3位)

野村 晃子(医学部医学科3年)

門脇 円(医学部医学科2年)

古川 詩乃(医学部医学科1年)

女子4×400mリレー第3位

舟本 有里(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり(第60回西日

本医科学生総合体育大会女子

3000m第3位)

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×100

0

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子3000m第2位、女子

1500m第3位)

野村 晃子(医学部医学科3年)

門脇 円(医学部医学科2年)

古川 詩乃(医学部医学科1年)

女子4×400mリレー第3位

舟本 有里(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり(第60回西日

本医科学生総合体育大会女子

3000m第3位)

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×100

0

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子3000m第2位、女子

1500m第3位)

野村 晃子(医学部医学科3年)

門脇 円(医学部医学科2年)

古川 詩乃(医学部医学科1年)

女子4×400mリレー第3位

舟本 有里(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり(第60回西日

本医科学生総合体育大会女子

3000m第3位)

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×100

0

第60回西日本医科学生総合体育大会

男子3000m第2位、女子

1500m第3位)

野村 晃子(医学部医学科3年)

門脇 円(医学部医学科2年)

古川 詩乃(医学部医学科1年)

女子4×400mリレー第3位

舟本 有里(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり(第60回西日

本医科学生総合体育大会女子

3000m第3位)

荒木 真理(医学部医学科4年)

※個人入賞及び女子4×100

0



合宿を行った八ヶ岳



特集

地域に飛び出し

活動する 学生たち

島根大学には、約6,300名の学生が学んでいて、大学が公認する課外活動サークルが文化系、体育系合わせて約180団体、同好会も約50団体あります。多くの学生がサークル活動に参加しており、学内、学外でそれぞれ特色ある活動をしています。ここでは、そのほんの一部ですが、学生たちの活動内容をご紹介します。

●ワンダーフォーゲル部

強い心の絆で 日本の山を制覇

島根大学ワンダーフォーゲル部は1年生8名、2年生4名、3年生5名、4年生6名で活動しています。ワンダーフォーゲルとは、ドイツ語で「旅鳥、渡り鳥」を指し、転じて「山登り、全国を旅すること」を意味します。皆さんは「登山」と聞いて、どんなイメージが思い浮かびますか？リュックサックにお弁当と水筒を詰めたハイキング？それとも、大きいザックを背負い山に登ること??はたまた岩壁に命と情熱を懸けるロッククライミング??登山の種類は実にさまざまですが私たち島大ワンゲル部は2つ目の大きなザックを背負って山に登ることを活動の主体とし、1年を通して島根県の山や中国地方の名峰「大山」などに登っています。そして、夏と春には大きな合宿を組み、全国の山と自然を求めて羽ばたきます!!昨年の夏は日本の大自然と雄大さを見せつける「北海道」、日本第2位の高峰北岳を有し天高くそびえる「南アルプス」、険しい岩稜とゆつたりとした山並み、2つの山容を併せ持つ「八ヶ岳」、以上3つの合宿を行いました。

さて、それではどうして人は山に登るのでしょうか?その答えは山にあります!コンクリートで舗装されていない登山道、太陽の光に透けた葉っぱの色、稜線を吹く風、前髪を濡らす雨、いつもより近い空、大きい月と星。見

渡す限りの山、山、山。その一つひとつがただ好きだから。山に登る理由なんてそれだけで十分じゃないですか!この足で行けるところまで行ってみたい。そこで何を見て、自分はどんなことを考えるのだろうか。これだから山はやめられません!!

しかし、ただ山に登るだけなら1人でもできます。島大ワンゲルとして、山に登る上で不可欠なもの。そう、P-Team(パーティメンバー)の存在です!日々、共にトレーニングに励み、いくつもの山を乗り越えてきたP-Teamがいれば、どんなにしんどくても頑張ることができます。同じ釜の飯を食べる者同士、強い心の絆が結ばれる、というのはどうやら本当のようです。

登山は自然を相手にするため、決して楽だとは言いません。だからこそ、他の部活とは二味もちがう経験ができます。いろんなところへ行ったり、たくさん泣いた。でも、たくさん笑ったと思う。それが島根大学ワンダーフォーゲル部です。

●漕艇部

目標は インカレ決勝進出

島根大学漕艇部は部内一丸となつてインカレ決勝進出という目標にむかって日々努力しています。

今までの成果としては国体で8位という成績を納めたり、新人戦で女子が8位という成績をおさめたりして活発



に活動しています。

僕たちの強みは、大学からは少し遠いですが、島根大学漕艇部専用の艇庫や、約2キロの直線のコースがすぐ近くにあり、やる気があれば毎日でも上艇ができる素晴らしい環境があることです。

マネージャーさんの手料理のお昼ご飯や夜ご飯をお腹一杯ワイワイ言いながら食べるのも漕艇部の魅力の一つです。

普段の練習では、くにびき大橋やスパーエブリの近くで漕いでいますので見掛けたら是非応援よろしくお願います。

ボートってなに？

と気になったら市民レガッタなどを開催しているので、ぜひ一度参加してみてください。毎年恒例となっていますので、市民レガッタのために練習に来る人や沢山の方が常連になっていたり、地域の皆さんとも活発に交流しています。

漕艇部の部員が一人から漕ぎ方を指導しますので、初心者の方でも安心して楽しく漕げます。



好成績で表彰されたメンバー

一度乗ってみればボートの楽しさが分かります、やみつきになること間違いなし!!

またやりたいと思われた時はぜひ松江ローイングクラブに顔を出してみてください。

最近ではアジア初でシアトルに遠征に行ったり、機関誌「宍道湖」というものを作って配布したり、どう行列入に参加するなど、地域活動に積極的に参加している部活です。

始めは少ししんどいかもかもしれませんが、やればやるほどに上手くなっていき、ほんとにやり甲斐がものすごくある部活だと思います。

●放送サークル

インターネットラジオ放送中

放送サークルって何？何かしゃべったりするとこなの？と様々な疑問が浮かんでくると思います。確かにそれはごもつともだと思えます。

「放送」といっても、テレビ・ラジオ・アナウンス：そのジャンルはとも多いのです。では、わたしたち島根大学放送サークルはどんな活動をしているのかといいますと、それは「インターネットラジオ」です。インターネットラジオって何？とまた新たな疑問が出てくるかと思いますが、インターネットラジオとは、FMやAMのラジオとは違い電波は流さず、インターネット上でラジオが聴けるというものです。このインターネットラジオを聴くには、主にパソコンが必要ですが、アイポッドに保存して聴けたり、一部の携帯電話からも聴くことが可能なのです。

そんなインターネットラジオを通して私たちは毎日活動しているというわけですが、部員数は20人弱とまだまだ少ないですが、とつても楽しい放送をしています。

主な活動時間は月曜日・土曜日の夕方からです。それぞれの曜日によって、コーナーを決めたり、その日あ



インターネットラジオ放送

たことをフリートークでしゃべったりと色々な話題で放送しています。リスナーさんの数はまだ少ないですが、どなたが聴いてくださってもとても楽しい話題溢れる放送をしているので、是非地域のみなさんも聴いてみてください。また、これからは地域のことも話題にしたりするかと思えますので、その時には是非ともご協力よろしくお願います。

またこれからは、インターネットラジオだけでなく、映像など様々なことにも着手していこうと思っています。わたしたちの活動内容・放送など詳細なことはホームページにも載せていますので、是非ご覧になってください。ね!!またどこかで放送サークルの名前を見聞きしたときはチェックしちゃってください。これからは島根大学放送サークルをよろしくお願います!!

●ホームページ「しまるーと」

<http://www.comrade-jp.net/hoso>



カフェバーで絵画や管弦楽団とコラボレーション

●写真部〈医学部〉

写真を通して癒しを表現

医学部写真部は2008年4月、正式に部活動として認定された今一番新しく、勢いのある部活動です。創部以来、現在までに写真展、撮影会、交流をかねたピクニックなど様々な活動を通して学内だけでなく学外の方々にも多くの共感を得てきました。その甲斐あってか部員数は順調に増え続け、現在では医学科と看護科を合わせて60名

を超える医学部の中でも2番目に大きな部活となりました。

私たちの活動は、まず、病院内での写真展示があります。

私たちは将来の医療従事者として、写真を通して病院内に少しでも明るさや癒しがあればと思います。附属病院や大学に協力していただき、病院内の一角に患者さんに楽しみや微笑みを提供できるような作品を常設しています。あきてしまわないように季節を考え、定期的に作品を入れ替えて楽しんでいただき、これまでにたくさんの喜びの感想をいただきました。現在でもより多くの患者さんやそのご家族、あるいは病院に勤めておられる方々に写真を通して癒しの場を提供できるように、もつと作品を展示できる場所がないか病院の事務の方々と協議しています。

次に、学内や学外での写真展で、これまで学内と学外の2回写真展を開催し、のべ600人以上の方々写真を見ていただくことができ、多くの感想をいただきました。私たちは絵画や造形と同じように写真もアートだと考えます。写真のアートの一面も大切に活動し、前回の写真展は雰囲気の良いカフェバーで芸術部（絵画）やシニールカメラート（管弦楽団）とコラボレーションしました。

また、部内交流を兼ねた撮影会があります。これまでに世界遺産に登録された石見銀山、学校から程遠くない絶景の立久恵峽などに足を運び、撮影会を行いました。春には桜の綺麗な木次の土手へ、夏には海水浴を兼ねて田儀に、秋には紅葉が綺麗な鱒淵寺、冬は

雪景色を…と考えています。

さらに、写真初心者のために、写真の基本をみんなで簡単に楽しく学び、実践する勉強会も行っています。みんな写真のことを知れば知るほど面白くなってどんどん写真にはまっていくようです。

私たち写真部は部員の90%が初心者で、普通のコンパクトデジタルカメラを使って撮影していますが、なによりみんな写真が好きで、それを表すように初心者でも、とても素敵な写真が撮れています。

●エコロジー・ネットワーク

地域と共に環境活動を展開

私たち「総合環境サークル エコロジー・ネットワーク」はその名の通り、社会環境や自然環境をテーマに活動しているサークルです。

平日は会員が興味を持った問題を各自で調べ、定期的に行う集まりの中で発表するといった活動が中心ですが、休日には野外に出て、調査やビオトープの補修を行ったり、地域の環境団体や島根県内のNPOと一緒にお祭りの手伝いや環境活動を行ったりと、積極的に活動しています。

基本的に会員ごとに対象とするテーマが違うため、それぞれの活動はばらばらなことも多いです。そのため毎年、会全体で同じテーマを設定し活動を行っています。平成20年度は「身近な地域」というテーマの下、大学近く

を流れる朝酌川を対象に活動を行いました。

ご存知の通り、朝酌川は松江市中心部を流れる河川と合流したり、農業用水として利用されたりと、私たちにとつてとても身近な河川のひとつです。私たち、総合環境サークルは、パットテストを用いた簡単な水質調査を行い、河川環境の理解を通じて河川と人とのより良い付き合い方を考えていきたいと思っています。

また、この活動の一環として、「市民による身近な水環境調査」というテーマで、講師に全国水環境一斉調査の事務局長を勤められている佐山氏と新河岸川水系水環境連絡会の代表である菅谷氏をお招きし、学習会と水質調査の実地研修を行いました。

また、サークルの活動として大学祭への出展もあります。大学祭では毎年竹とんぼ工作を行っています。その準備では、東出雲にある研修施設「おち



水質調査活動

チームをまとめ、3連覇に貢献

医学部のバスケットボール部は、5月に開催された近畿中国四国医科男子学生バスケットボール大会で優勝したほか、11月に開催された中国四国医学部バスケットボール大会でも優勝し、この大会で3連覇を成し遂げました。



中国四国医学部学生大会で3年連続MVPの服部晋明君

医学部のバスケットボール部は、現在部員16名、他大学に比べて部員は少ないが、チーム全員で頑張っています。キャプテンは医学科

3年の服部晋明君、服部君は近畿中国四国大会でMVPを獲得したほか、中国四国大会において3年連続となるMVPを獲得しました。

“しまねの顔”、しまね観光大使に決定



小川千春さん

島根大学法文学部3年の小川千春さんが、「しまね観光大使」に選ばれました。このしまね観光大使は、島根県観光連盟が募集したもので、

小川さんを含め3名が選ばれました。任期は8月1日からの2年間、県内でのイベントや日本各地での観光PRキャンペーンなど、“しまねの顔”としての活躍が期待されています。

新聞週間標語、代表標語に選出



幸田真理子さん

新聞週間標語の代表標語に、法文学部3年幸田真理子さんの作品『新聞で社会がわかる自分が変わる』が選出されました。これは、日本新聞協会が新聞週間に前に毎年募集しているもので、幸田さんの作品は、応募総数7,550編のうちから、代表標語に選ばれました。

新聞協会が新聞週間に前に毎年募集しているもので、幸田さんの作品は、応募総数7,550編のうちから、代表標語に選ばれました。

らと村』に協力していただき、竹の切り出しから羽のベースとなるチップの加工までを行いました。当日は会員が子ども達と一緒に竹とんぼを作り、たくさんの人に楽しんでいただけた。他にも大学祭期間中に発生した使用済みの割り箸を回収し、米子の王子製紙で再生紙としてリサイクルしてもらう活動も毎年行っています。それに加えて、今年はバックテストのデモンストレーションや、朝酌川の生物調査も実施しました。平成18年度には「平成18年度島根・山口・愛媛・高知4大学間 学生交流自主的・実践的研究プロジェクト」で竹林の問題について研究、発表を行いました。ここでは荒れた竹林を資源として考え有効利用する方法について発表を行いました。

21年度は現在の水質関連活動の継続に加え、土壌に関連した活動を行うことを予定しています。

● 献血推進サークル「ぐっぽ」

地域に貢献する 献血推進活動

私たち献血推進サークル「ぐっぽ」は、その名の通り献血の推進活動を行っています。主な活動として、島根大学内や街頭で赤十字血液センターが主体となつて行う献血の際に、ビラやティッシュを配りながら献血の呼び掛けを行っています。特に冬場は、献血をしてくださる方が少なく、呼び掛けにも熱が入ります。こういった献血推進活動を学内や街頭などで年6〜7回行っています。こういった学生によるボランティア団体は全国各県にあり、年に数回中四国の9県の学生が各県の活動状況の報告や意見交換のため、会議や交流会を行っています。また、年に1度全国47都道府県の学生代表が一同に集まり、報告や親睦を深めるため

の大規模な会議にも参加しています。献血の呼びかけをするときにも、ただ呼び掛けを行うだけではなかなか目に付きにくいので、いろいろと工夫を凝らします。例えば、着ぐるみを着て呼びかけを行っています。クリスマスなどの時期には、少しでも献血のアピールができるようにとサンタの衣装を着て活動を行いました。他にも受付周辺の飾り付けや音楽を流すなどして、より



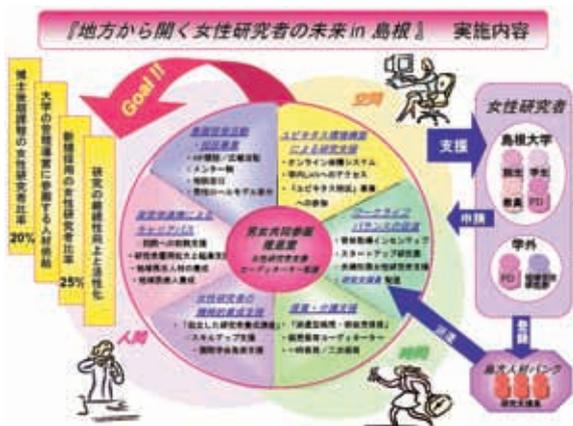
学内での献血活動

多くの人に献血に協力してもらえよう努力しています。昨年の7月には、島根県赤十字血液センターの一日所長を務め、献血に協力していただけるよう企業や病院を訪問しました。また、10月には島根県献血推進協議会から感謝状をいただくなど、充実したサークル活動を行っています。

「献血」と聞くと、なんだか硬いイメージを持っている方が多いように感じます。やはり、体に針を刺すので痛い・怖いという思いは誰しも持っていると思います。私たちは、そういった気持ちをどうやったら変えられるか、どのように呼びかけをしていけば献血をしてくれる方が増えるのかということとが、常に課題です。近年、若者の献血離れが進んでいると言われています。若者が多い島根大学で献血を広めていけば、少しでも献血離れを防げるのではないかと考えています。

女性研究者支援 モデル育成 プログラムが採択

平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援



モデル育成」プログラムに、島根大学が提出した「地方から開く女性研究者の未来 in 島根」が採択されました。

これは、女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするために、文部科学省が大学や公的研究機関を対象として、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、その能力を十分に発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築するモデルとなる優れた取組に対して、3年間、年間5千万円の助成金を交付して支援するというプログラムです。

島根大学における ワーク・ライフ・ バランスの実現

島根大学の「地方から開く女性研究者の未来 in 島根」という事業は、「地域における国立大学のモデルとなることが期待され高く評価された」(審査コメント)ことにより、このほど採択が決定しました。
島根大学の事業プラン

平成20年度 質の高い大学教育 推進プログラム 【教育GP】に選定

文部科学省は大学教育改革の取組の推進を図るため、「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」を実施し、国公立大学を通じた競争的環境の下で、特色・個性ある優れた取組「G.P. Good Practice」を選定・支援しています。また、GP以外のさまざまな事業も公募しており、ここでは、平成20年度に選定・採択された本学の取組みを、紹介します。

ての高等教育の質保証、国際競争力の強化に資することを目的としたものです。

全国の大学・短期大学・高等専門学校から応募のあった939件の内、148件が選定されました。

【取組の内容と特色】

1. 多様な指導的人材の活用による「環境寺子屋」の設置と教育プログラム開発

自然系専任教員を中心に理系ポスト・ドクター(PD)・シスタント(TA)等の多様な人材による「環境寺子屋」(環境・理科教育推進室)を構築します。

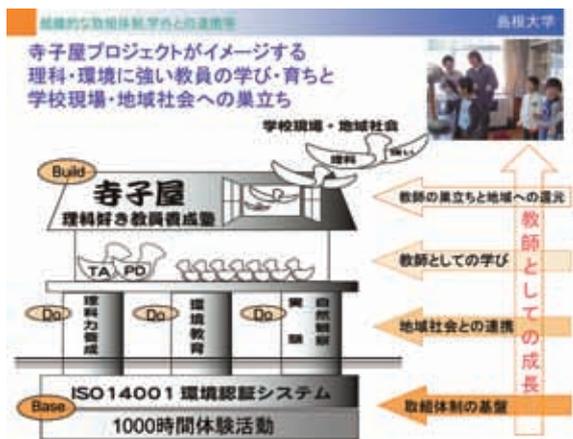
「環境寺子屋」は、自然科学教育に関する豊かな理解力と教育実践力(理科力)を有し、環境教育に卓越した指導力を発揮する学生を育成するための教育プログラムを開発を担当します。

2. 「環境寺子屋」による「環境教育」、「理科力育成プログラム」の

構築と提供

① 本取組は、通常の単位認定と異なる独自の卒業要件である「1000時間体験学習プログラム」として提示され、学生の学びの成果は体験時間の蓄積によって示されます。学生は、活動の場である「環境寺子屋」において、「環境教育」、「理科力育成プログラム」を学ぶことを通じて、子どもの多様な発達段階に対応する実践活動を直接体験できます。

② 学生は、「環境寺子屋」に



のなかには、鳥根大学に働く全教職員や、学生も対象となる事業も含まれており、女性研究者支援を突破口に大学全体の職場環境・学業環境の改善へつなげようとしている点も評価されました。また、学内構成員に対してだけでなく、女子中高生の理系進学選択支援の取組など、幼

児から高校生までを対象とする事業も盛り込まれています。本事業の採択により、鳥根大学は「男女共同参画推進室」を新設、事業専従のスタッフを配置して、男女共同参画推進・女性研究者支援に関する事業を多角的に進めていくこととなります。

る「ラーニング・ラボ」が選定されました。

大学病院連携型 高度医療人養成 推進事業に選定

文部科学省が新たに公募した平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に、本学が申請し、神戸大学・鳥取大学・兵庫医科大学と連携する「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム（地域医療と高度先進医療の融合による新たな教育システムの構築）」及び、東京医科大学が申請し、鳥根大学・秋田大学が連携する「都会と地方の協調連携による高度医療人養成——「付加価値」を身につけ

る大学病院連携型高度医療人養成推進事業」は、複数の大学病院が緊密に連携・協力し、それぞれの得意分野による相互補完を図り、各病院（地域における関連医療機関を含む）を循環しながら修練や幅広い経験を積むことができる医師キャリア形成システムを構築するとともに、大学病院の若手医師に多様なキャリアパスを明確に示すことにより、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念でき、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者の養成に資するとともに研修中及び研修終了後により多くの医師が地域医療に貢献することを目的としています。

全国の国公私立大学から応募のあった28件の中から19件が選定されました。

詳細は <http://www.med.shimane-u.ac.jp/koudoinyujin/> から。

において、環境問題の自然科学的分析手法、子どもたちに提示する実験教材の取り扱いおよび教材開発等を学び、さらにその成果を「科学実験教室」として実際に提示する段階にまで到達します。これらの段階的学習は「理科力育成プログラムシート」への記入と指導教員との対話を通して完結します。学生は「プログラ

イルシート」を媒介とした一連の活動を通して、自らの資質の向上を可視化するとともに、次の学修課題を明確に示す客観的指標を獲得することができま

③本取組には、環境問題を単に知識として習得するだけでなく、生活者としての実践力、学校教師としての自然科学的認識力、子どもに對する理科指導力等をト

平成20年度 専門職大学院等における 高度専門職業人養成 教育推進の採択について

●本プログラムは、専門職大学院を設置している国公私立大学において、当該専門職大学院が行うグローバル化に対応した国際競争力を高めるための取組や、教育の質を保證するための複数又はすべての専門職大学院で共有できる教育

課題等に対応する取組を支援するものとして募集されたものです。

これに対して、岡山大学大学院法務研究科（申請担当大学）、鳥根大学大学院法務研究科、香川大学大学院香川大学・愛媛大学連合法務研究科は共同して「中四国法科大学院連携教育システムの構築」を目指したプログラムを応募していましたが、このたび、このプログラムが採択されたものです。

●このプログラムの財政支援期間は2年間が予定されています。

●「中四国法科大学院連携教育システムの構築」プログラムの概要

本取組は、現在地方の法科大学院が直面している①教育内容・レベルの確定と標準化

タルに向上させる要素が含まれています。本取組は、学部の有する教員養成能力とISO14001環境認証規格等を基盤とした経験と実績の集積であり、その教育的成果は、循環型社会に資する環境リテラシーに富みかつ高い理科力を有する教師の育成に資することが期待されます。

の問題②多様な専門性のある教育の提供の問題に 대응べく、地方法科大学院における「法曹養成教育の質の改善・拡充」を目指し、『理論と実務の架橋』をめざした法科大学院教育を実現すべくその新たな教育システムの構築の二点を目的とするものです。

この目的実現のために、地方の法科大学院が単独で個々に新たな教育システムを構築するより、中四国法科大学院及び弁護士会が連携し、共通の教育プログラムを作成し、教育内容・方法の充実と厳格な成績評価システムの構築を図り、他方で相互授業参観、相互模擬授業の実施などによる効果的なFDシステムの開発を試み、実務教育も含めた共同教育システムの構築を目指すものです。

受賞・表彰者紹介

第5回日本e-Learning大賞 審査委員特別賞を受賞

医学部のe-Learningによる地域医療教育遠隔支援の取り組みが第5回日本e-Learning大賞(e-Learning WORLD 2008 実行委員会、日本工業新聞社主催)の審査委員特別賞を受賞し、表彰式が7月30日に



e-Learning WORLD 2008 (東京ビッグサイト)の会場で行われました。e-Learning大賞は、大学等における新しい学習の可能性・学力向上に役立つさまざまなコンテンツ・サービスなどが表彰されるものであり、平成18年度から医学部が構築しているこの取り組みが高く評価されたと思われれます。表彰式には代表者の益田教授が出席し、看護学科の中谷教授が受賞者によるプレゼンテーションを行い、本学のe-Learningによる地域医療教育遠隔支援を広くアピールすることができました。

e-Learning ⅴⅴ

パソコンやコンピュータネットワークなどを利用して教育を行うこと。教室で学習を行なう場合と比べて、遠隔地にも教育を提供できる点や、コンピュータならではの教材が利用できる点などが特徴である。学習の場所や時間を選ばないため、個人のスケジュールに合わせて自宅で学習できるなどの利点がある。

持田正悦技術専門職員が 全国大学農場技術賞を受賞

生物資源科学部附属生物資源教育研究センター・農業生産科学部門の持田正悦技術専門職員が、平成

20年度全国大学農場技術賞を受賞されました。

受賞式は、9月4日に日本大学で開催された平成20年度全国大学附属農場協会秋季全国協議会において執り行われました。

この賞は、大学農場の教育・研究支援への貢献及び農場等の活性化に特に功績のあった技術系の職員に授与されるもので、今年度は5名が受賞しました。持田氏は、本庄総合農場におけるサクラの品種保存、新品種育成及び普及活動に尽力した功績が認められ、今回の受賞となったものです。



佐藤利夫教授が

「共同研究・技術移転功労賞」を受賞

生物資源科学部生態環境科学科の佐藤利夫教授が、7月17日、18日に行われた中国地域産学官コラ



ボレーション会議主催の「地域イノベーション創出2008 in 山口」において、「共同研究・技術移転功労賞」を受賞されました。

対象となった研究は「機能性無機材料による排水からのリン除去・再資源化技術の開発」で、この研究は平成18年度の経済産業省

「地域新生コンソーシアム事業」に採択された技術開発であり、その成果として、大学のシーズを、県内企業を中心とした技術開発グループとの共同研究により、実用レベルのシステムにまで確立させたことに対して表彰されたものです。

平川教授が国際学会で 論文賞を受賞



総合理工学部数理・情報システム学科の平川正人教授が、IEEE Symposium on Visual Languages and Human-Centric Computing において、Most Influential Paper Awardを受賞されました。

これは、これまでに採録・発表された論文の中で、この分野において最も大きな影響を及ぼしたと評価される論文2件が Most Influential Paper Award に選定されたもので、そのひとつが平川教授他の発表した『HI-VISUAL: A Language Supporting Visual Interaction in Programming』(1984年発表)であり、本年9月17日にドイツで開催された2008年会議の席上で同賞の授与が行われたものです。

IEEE Symposium on Visual Languages and Human-Centric Computingは、1984年に第1回会議が開催されて以来(当初はIEEE Workshop on Visual Languagesとして開催)、ほぼ毎年開催されているもので、視覚言語及びヒューマン・コンピュータ・インタラクション分野にあって歴史ある、かつ中心的な国際会議のひとつです。

保母武彦顧問、 銀川市(中国)榮譽市民の称号を授与

保母武彦島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問が、寧夏回族自治区銀川市から銀川市榮譽市民の称号を授与されました。これは、銀川市が寧夏回族自治区設立50周年を記念して、今年度から実施したもので、銀川市の経済社会の発展に顕著な功績をあげた自治区民以外の個人に授与するものです。



第1回目となる今回の受賞者は、銀川市各区から60名が推薦され、銀川市全人大常務委員会、銀川市政府、銀川市党委員会の審査を経て、外国人4名、自治区以外の中国人11名が選ばれたということです。外国人4名は、保母教授の他に、日本の工作機械メーカー「ヤマザキマザック」(本社愛知県)の現地法人「小巨人機床有限公司」の副総経理小堀昌吾氏と南アフリカ及びドイツの企業家です。授賞式は、9月24日、銀川市行政中心の会議ホールで、銀川市の主要な幹部、選出単位の職員、関係者約800名が見守る中で盛大に行われました。

野田教授(総合情報処理センター長)に 地域情報化推進功労者表彰

6月2日に行われた総務省中国総合通信局、中国情報通信協力会主催の「平成20年度電波の日・情報通信月間記念式典」において、野田哲夫法文学部教授(総合情報処理センター長)が総務省中国総合通信局長から地域情報化推進功労者として表彰されました。



とともに、ICT関連の講師を精力的に務めて情報化の普及促進に寄与し、さらには本学と島根県の共催で毎年開催している情報通信月間セミナーをはじめとする各種セミナーの開催に尽力したことなど、地域情報化の推進への多大な貢献が評価され、情報通信月間に際し、表彰されたものです。なお、本学では、今年度も情報通信月間参加行事として、島根県と共催で、6月11日に「デジタルコンテンツが変える地域の未来」セミナーを実施しました。

藤原賢二准教授(総合理工学部)が 日本物理学会「注目論文賞」を受賞

日本物理学会発行の Journal of the Physical Society of Japan (JPSJ) に投稿した論文(論文名: 重い電子系超伝導体 CoCu_2S_2 の価数揺らぎ超伝導機構の検証—Cu-NQR からのアプローチ)が、12月号の「Papers of Editors, Choices」(JPSJ 注目論文)に選ばれました。さらに、2009年1月1日付けの科学新聞にその成果が掲載されました。なお、研究の概要は次のとおりです。

研究概要

超伝導体 CoCu_2S_2 に圧力をかけていくと、超伝導転移温度が3万気圧以上で2倍以上上昇する。島根大

医学部附属病院の 式部さんと飯国さんに功労者表彰

学の藤原賢二准教授らはこの高圧下でO₂核の核四重極共鳴(NMR)実験を行い、価数揺らぎ—セリウムイオンの価数、3価と4価、が空間的に互いに影響を及ぼし合いながら変動するものを媒介とする新しい超伝導メカニズムを示唆する超伝導特性を見出した。フォノン(Phonon)機構、電子スピンの揺らぎ機構に続く、価数揺らぎ機構による超伝導の解明に向けた実証研究の大きな一歩として、多くの研究者の注目を集めている。

このたび、医学部附属病院材料部医療機器操作員の式部博さんと看護部看護助手の飯国由美子さんが、文部科学省の平成20年度の医学教育等関係業務功労者として表彰されました。

この表彰は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に従事している者で、同一職種の業務に20年以上従事し、またその功労が顕著であり他の模範となっていること等の基準を満たす者を対象とするもので、表彰式は11月28日に東京都で行われました。

式部さんは、本学医学部附属病院(旧島根医科大学附属病院)開院当初から患者給食業務に長年精励されるとともに、医療機器操作員となられてからも多忙な業務に忍耐強く従事し、院内感染防止に貢献されたことが評価されました。また、飯国さんも、本学医学部附属病院(旧島根医科大学附属病院)開院当初から看護助手業務一筋に長年精励され、看護助手業務の基礎を築くとともに、看護助手業務の改善に尽力されたことが評価されました。



公・開・講・座 公・開・授・業

平成21年度前期の公開講座と公開授業が決定しました。公開講座については、これから申込みができる講座もたくさんあります。この機会に受講されてはいかがでしょうか。

公開講座

島根大学では、生涯学習教育研究センターが中心となり、地域の皆様には生涯学習の機会を提供しています。平成21年度前期は、次の内容で講座が開設されます。

開設講座

下表をご確認ください。

受付期間等

平成21年3月5日(木)午前10時から、各講座開講日の1週間前まで受付いたします。申込受付は、先着順で行い定員になり次第締め切ります。

受講料

講座によって有料、無料があります。

◎平成21年度前期 島根大学公開講座

講座名	講習料	対象者	募集人数	時期	回数	総時間
さあ、ドイツ語をはじめましょう	5,000	市民一般・小中学生・高校生・行政職員・教職員・民間技術者	10名	4月17日～6月26日	10	10
もっともっとドイツ語を！	5,000	市民一般・小中学生・高校生・行政職員・教職員・民間技術者	10名	4月17日～6月26日	10	10
ボタンの鑑賞と増殖	1,200	市民一般	15名	5月1日・9月4日	2	3
こども硬式テニス教室 1-A	4,600	小学校低学年、初めて、初心、初級	30名	5月9日～6月27日	8	12
こども硬式テニス教室 1-B	4,600	小学校高学年、初めて、初心、初級	30名	5月9日～6月27日	8	12
硬式テニス教室	7,000	市民一般、(テニス実技初・中・上級者)	30名	5月13日～7月15日	10	20
楽しいサツマイモ栽培	4,600	市民一般	30名	5月15日～1月22日	8	12
育てて食べよう黒ダイズ	3,200	市民一般	20名	6月19日～12月18日	4	8
泳げない子の水泳教室	5,500	小学3～6年生	20名	7月21日～7月25日	5	15
少しだけ泳げる子の水泳教室	5,500	小学3～6年生	20名	7月21日～7月25日	5	15
津田カブの栽培と加工	2,400	市民一般	15名	9月11日～12月11日	4	6
第4回・島根まるごとミュージアム体験ツアー	無料	市民一般・小中学生・高校生	20名	4月4日・4月11日	2	4
松江の名産西条柿に親しもう	無料	小学生とその家族	30組	5月下旬～10月下旬	3	6
大規模災害における新たな環境整備構築に向けて	無料	市民一般・行政職員・教職員・民間技術者・歯科関係者	50名	7月11日	1	2
感染症入門講座(1)	無料	市民一般・高校生	50名	7月4日～8月1日	5	7.5
理科実験講座1 自然の中の放射線	無料	市民一般・小中学生・高校生	15名	7月27日	1	3
理科実験講座2 実験動物学初歩	無料	市民一般・小中学生・高校生	15名	7月28日	1	2.5
理科実験講座3 台所は実験室	無料	市民一般・小中学生・高校生	15名	7月29日	1	3
理科実験講座4 顕微鏡の世界	無料	市民一般・小中学生	15名	7月24日	1	3
夏休み子供科学教室「体の仕組みと健康について勉強しよう」	無料	小中学生	20名	7月31日	1	2
地域再生システム特論	無料	市民一般・行政職員・教職員・民間技術者	50名	未定	15	45

講座の一コマ



公開授業

島根大学で通常、学生を対象に開講されている正規授業の一部を公開し、皆様の生涯学習に役立てていただくというものです。

平成21年度前期は、次の内容で授業が公開されます。

開設授業

下表をご確認ください。

※前期授業の受付は終了しました。

受講料

一科目6,500円です。

申込方法

申込方法

郵送、FAX、Eメール、生涯学習教育研究センターホームページ上の申込フォーム、窓口に参加のいずれかの方法で申し込んでください。

受付時間

10時～12時、13時～16時（土、日、祝祭日を除く）

受付場所

島根大学生涯学習教育研究センター

問い合わせ先

島根大学生涯学習教育研究センター
TEL 0852-3216408
FAX 0852-3216098
E-mail erc11@edu.shimane-u.ac.jp

◎平成21年度前期 島根大学公開授業

※授業形態は基本的に講義となります。

〈教養教育科目〉

科目名	曜日	時限	募集人数
東アジアのこぼと文学	月	1・2	10名
歴史学概論	月	3・4	10名
日本人の宗教と死生観	月	5・6	10名程度
情報化社会と経済	月	5・6	5名
汽水域の科学	火	3・4	無制限
細胞学	火	3・4	5名
古代中世の山陰	火	5・6	無制限
心の世界	火	5・6	無制限
日本の自然災害	水	1・2	5名
古代出雲の考古学	水	1・2	無制限
人類史と考古学	水	3・4	10名
遺伝学	木	1・2	3名
心の形成	木	7・8	10名
異文化との出会い	木	7・8	10名
医療人類学	木	7・8	5名
英米文学入門	木	7・8	5名
島根学～島根の医学・医療と文化の歩み～	木	9・10	20名
環境の化学	金	1・2	10名
エレクトロニクスのはなし	金	1・2	5名
基礎社会学 I	金	3・4	5名
世界の文学 I～アメリカ文学と人種、ジェンダー、階級～	金	3・4	3名
電気と磁気の物理学	金	3・4	5名
歴史のなかの宗教 I	金	5・6	5名
情報と地域～オープンソースと地域振興～	金	7・8	無制限
数の世界	金	9・10	10名
環境問題通論 A～21世紀に生きるための基礎知識～★	金	9・10	10名
森林から耕地、海へ★★		集中講義	若干名

★：授業形態は講義・実地見学となります。

★★：授業形態はセミナーとなります。

★★★：授業形態は講義・実習となります。

★★★★：授業形態は演習となります。

★★★★★：授業形態は実習となります。

〈専門教育科目〉

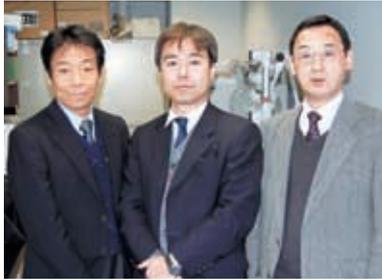
科目名	曜日	時限	募集人数
地域産業特論	月	5・6	5名
考古学概論 1	月	5・6	10名程度
東洋史概説 A	月	7・8	3名
地域産業論 I	月	7・8	5名
考古学特論 A	月	7・8	5名程度
生産技術基礎実習 I	月	7・8・9	5名
木によるものづくり実習 III	月	9・10	5名
日本史概説 A	火	1・2	無制限
代数学入門 I	火	1・2	5名
地誌学概説 ★★★	火	3・4	無制限
共生社会演習(人文地理学) ★★★★★	火	5・6	無制限
財政学 I	火	5・6	無制限
フランス文化入門	火	5・6	10名
生産技術基礎実習 III ★★★★★	火	7・8・9	5名
電気電子工学概論	火	9・10	5名程度
耕地生産技術管理論	水	1・2	5名
西洋史概説 A	水	3・4	10名
植物細胞工学	水	5・6	5名
自然地理学 I	木	1・2	5名
農作業管理論	木	3・4	5名
果実発育生理学	木	5・6	3名
自然地理学概説 I	木	7・8	10名
生産技術基礎実習 III ★★★★★	木	7・8・9	5名
人文地理学概説 I ★★★	木	9・10	無制限
情報産業論	金	1・2	5名
高分子科学	金	3・4	5名
日本古典文学特殊講義	金	7・8	無制限
歴史学史料演習 G ★★★★★	金	7・8	3名以内
木によるものづくり実習 I ★★★★★	金	9・10	5名
西洋史概説 B		集中講義	10名

研究紹介

島根大学では、
地域の文化と産業をリードしつつ世界に発信する研究を推進していますが、
ここでは、その中の特色ある研究について紹介します。

研究
紹介

①



左から筆者（中村）、藤田恭久総合理工学部教授、
佐藤守之助教授

新しい蛍光剤として 先端医療で応用可能な 酸化亜鉛ナノ粒子の開発

産学連携センター教授
中村 守彦

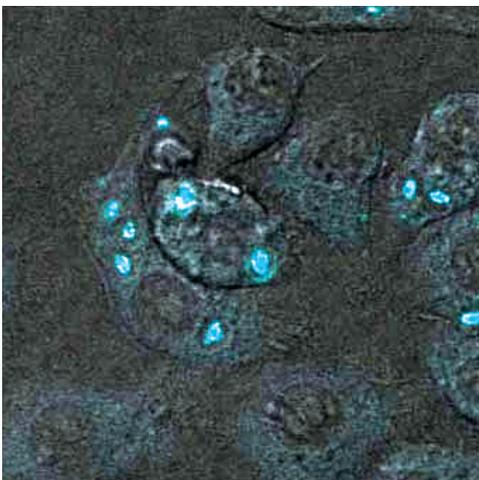
がんは日本人の死因の第1位です。目覚ましい技術の進歩により、がんの早期診断が可能になってきました。がんを小さいうちに見つければ克服できます。しかし、がんの中には早期の画像診断が難しく、発見が遅れてしまうこともあります。そこで、がん診断に新たな道を拓く最新技術の開発が望まれています。

その1つがナノ医療と呼ばれる先端医療です。ナノ医療研究は、ナノテクノロジーを医療分野において活用する応用研究です。この研究領域では、セレン化カドミウム（CdSe）と呼ばれる物質が特定の細胞などを可視化する蛍光標識材料として注目されていますが、これは強い毒性を示す上に高価な点が問題とされています。また、今年度のノーベル化学賞で一躍有名になった緑色蛍光タンパク質（GFP）も、人体での応用には倫理面などで大きな課題があります。一方、

島根大学で蛍光標識剤として開発した酸化亜鉛ナノ粒子は、がん細胞を認識する抗体などタンパク質と自由に結合させることができるため、ナノ医療への応用が期待されます。本学の医理工連携による「S-匠ナノメディスンプロジェクト」によって、酸化亜鉛ナノ粒子の臨床応用の可能性を培養細胞実験で実証しました。酸化亜鉛ナノ粒子を医療の現場で活用する上での最大の特徴は、無毒性が期待できる点にあります。酸化亜鉛はベビーパウダーの主成分で無毒です。但し、ナノ粒子（超微粒子）として酸化亜鉛を人体で応用するのは世界で初めての試みであり、毒性があるかどうかを動物実験で慎重に確かめる必要があります。その前段階として、島根大学で独自に開発した酸化亜鉛ナノ粒子について、一般的な細胞毒性がないことを確認しました。また、抗体を結合させる目的で酸化亜鉛ナノ粒子に官能基を付けた新しい蛍光標識剤を開発し、特許を出願しました。この蛍光剤で標識したタンパク質をマウスのマクロファージが取り込んで蛍光を発する様子を動画で観察しました（図参照）。

将来はがんの早期診断など最先端医療への応用が見込めることから、今後の展開に大きな期待が寄せられています。プロジェクトチームへがんを専門とする医師が新たにメンバーに加わり、先端医療の実現に向けた挑戦が始まりました。将来、内視鏡・胸腔鏡を利用して酸化亜鉛ナノ粒子の蛍光を検出したり、体外から超高感度CCDカメラでその蛍光を感知して小さながんを早期に発見できるようになるかもしれません。

（註）ナノは10億分の1を示す単位



取り込んだ酸化亜鉛ナノ粒子により蛍光を発するマウスの培養細胞



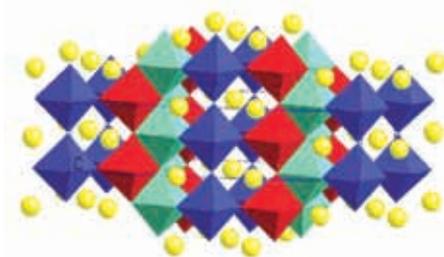
鉛フリーの圧電物質の開発 および 新規光触媒材料の開発

教育学部 自然環境教育講座 教授
秋重 幸邦

圧電性とは、物質に圧力をかけ歪めると電圧を発生したり、逆に電圧をかけると物質が歪む性質を言います。圧電性を持つ物質のことを圧電体と呼び、古くから魚群探知機、医療用超音波エコー、AE計測などの素子として、またライター等の着火材などとして広く使われてきました。近年では、ナノテク用アクチュエーター、液晶のバックライト用圧電トランス、超小型の圧電モーター、インクジェットプリンター用ノズルヘッドなどとして、さらなる広がりを見せています。しかしながら、圧電材料の多くは鉛を含むPZT系（ PbTiO_3 と PbZrO_3 の混晶）物質です。

近年ヨーロッパでは、電気・電子機器に含まれる特定有害物質に関する規制が始まり、2006年7月にはRoHS指令（Restriction of Hazardous Substances）が施行されました。鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル（PBB）、ポリ臭化ジフェニルエーテル（PBDE）の6物質が規制の対象とされ、構成部材での含有量を基準値以下にすることが義務づけられています。更に、2007年6月から、REACH規則（Registration, Evaluation and Authorization of Chemicals）が施行され、約3万種類の化学物質について「登録、評価、認可」が必要となりました。今のところ、圧電材料については代替物質がないという理由で、鉛を含むPZT系の材料の使用が認められています。しかし、電気・電子機器の鉛フリー化は時代の趨勢であり、鉛フリーな圧電材料の開発は世界的規模で精力的に進められています。

我々が注目したのは、少なくとも7種以上存在するBa-Ti系酸化物です。特にチタン酸バリウム（ BaTiO_3 ）は圧電体の代表的物質ですが、圧電性が転移温度 $T_C = 120^\circ\text{C}$ の比較的低温で消失することから、PZT系に置き換えられていった歴史があります。しかしながら、現在でも、積層セラミックコンデンサーやPTCサーミスターなどとして広く利用されており、電子機器の小型化のためにはなくてはならない存在です。我々は、2003年に、このBa-Ti系酸化物で新たな強誘電・圧電物質 BaTi_2O_5 を発見しました。 BaTi_2O_5 の結晶構造を図1に示します。この新規チタン酸バリウム BaTi_2O_5 は、 BaTiO_3 に比べて、転移温度 T_C が 470°C と高く、誘電率も2.5倍ほど大きく、また誘電損失は 500°C の高温でも0.1以下と小さいままであり、 BaTiO_3 に優

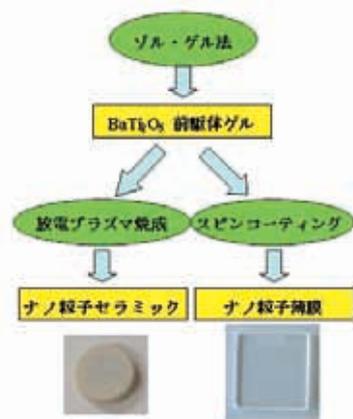


■図1 / 新規チタン酸バリウム BaTi_2O_5 の結晶構造
丸がバリウム、各八面体の頂点に酸素、中心にチタン。結晶学的に非等価な3種類の TiO_6 酸素八面体を色分けしている。

る応用的可能性を秘めています。数値計算からは、 BaTi_2O_5 の圧電定数は鉛系物質と同程度に大きいことが指摘されました。しかし、この物質は、 1150°C 以上で、 BaTiO_3 と $\text{Ba}_6\text{Ti}_{17}\text{O}_{40}$ 分解するため、急冷法で1mm弱の針状単結晶しか得られておらず、また通常の固相反応によるセラミックスの合成も困難でした。

我々はこれらの応用上の難題を克服するため、赤外線加熱を用いた熔融帯法による結晶育成を試み、急冷法の5倍近い大きさの単結晶を得ることができました。また、金属アルコキシドを原料としたゾル・ゲル法で前駆体ゲルを作製し、 650°C の低温で焼成することで、 BaTi_2O_5 のナノ粒子（粒径20—50ナノメートル）の合成に成功しました。このナノ粒子を用いて、 1000°C で放電プラズマ焼結し、相対密度95%以上の緻密セラミックスを作製しました（図2）。また、ゲル状前駆体をアルコールに分散させ

石英ガラス基板に塗布した後 $600\text{—}800^\circ\text{C}$ で焼成することで、 BaTi_2O_5 透明薄膜を作製することができました（図2）。この薄膜は、圧電性だけでなく、紫外線による光触媒効果などの機能性を有した膜であるので、今後の応用研究が期待されます。



■図2
ゾル・ゲル法を用いて BaTi_2O_5 ナノ粒子を作製し、それを用いて作製した緻密セラミックス（左）と石英ガラスの上に載せた透明薄膜（右）。



病因性ミトコンドリア 遺伝子変異によるがん細胞の 転移能の制御に関する研究

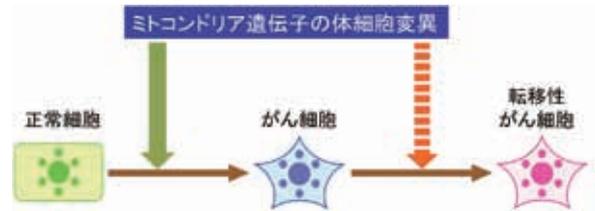
医学部 生命科学講座 腫瘍生物学 准教授
竹永 啓三

■研究内容

がんで死亡する原因の多くは転移が原因です。そのため「転移を制するものはがんを制す」と昔からよく言われ、世界中の多くの研究者が転移研究に取り組んでいます。私たちも、転移の克服ががんの治療にとって最大の課題と考え、そのメカニズムや転移抑制の方法などについての研究に取り組んでいます。また、最近ではがん細胞を取り巻く微小環境、例えば周りの正常細胞との相互作用や低酸素環境が、転移の亢進に関与していることが明らかになりつつあり、そのメカニズムについての研究にも取り組んでいます。一方、転移を予防あるいは予測することもがんの治療にとって極めて大切なことですが、これに関しては世界中の研究者の努力にもかかわらず、未だ際だって有効な予防法や予測法は発見されていないのが現状です。

■研究成果

私たちの体の細胞の中にある遺伝子には、細胞核中にある遺伝子と、ミトコンドリアという細胞内小器官中にある遺伝子があります。細胞核中の遺伝子の変異はがんなどの病気の原因になる場合があります。同じように、ミトコンドリア中の遺伝子の変異もミトコンドリア病などの病気の原因になることがあります。ミトコンドリアでは酸素を大量に消費してエネルギーを生産していますので、その副産物として遺伝子に傷をつける活性酸素種が多量に生産されます。そのため、ミトコンドリア遺伝子は核遺伝子に比べて突然変異が起こる頻度が5—10倍高いことが知られています。興味深いことに、がん細胞ではミトコンドリア遺伝子変異が高頻度に見られ、がん化との関連が示唆されてきました。しかし、がんの悪性化特に転移との関連については全く未知でした（図1）。最近私たちは、ミトコンドリア遺伝子中の病因性変異が、マウス由来のある種の培養がん細胞の転移を促進するという事実を世界で初めて見出しました。また、この病因性変異のために細胞内で活性酸素種の量が増加し、核遺伝子にコードされた転移関連遺伝子の発現が変化することが転移を促進する一因になっていること、活性酸素種を除去する薬剤（抗酸化剤）をがん細胞に作用させると転移が抑制されることも見出しました（図2）（Science, 320: 661-4, 2008）。



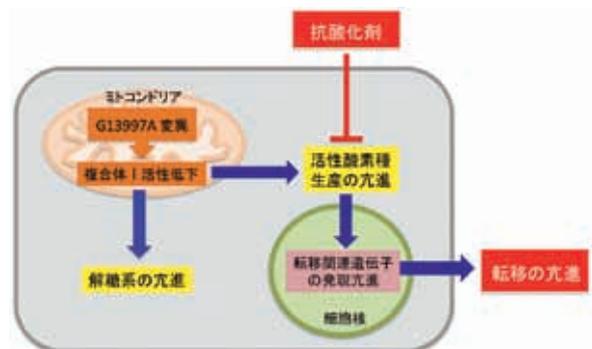
■図1
ミトコンドリア遺伝子変異のがん化と悪性化への関与の可能性

■この研究の意義

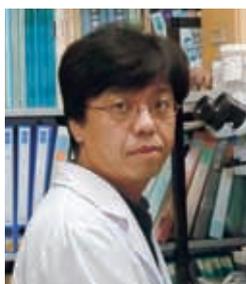
がんのミトコンドリア遺伝子中の病因性変異の有無を調べることで、そのがんが将来転移するかどうかを予測できる可能性が考えられます。また、この変異が原因で起きる活性酸素種の発生を抑制する薬剤が将来開発されれば、転移を抑制できる可能性もあるかもしれません。

■今後の取り組み

私たちが見つけたことがヒトのがんの転移にも当てはまるのかどうかは全く判っていません。また、どのような種類のミトコンドリア遺伝子変異が転移と関連しているのかも不明です。さらに、すべてのがんの転移のうちで何割くらいが病因性ミトコンドリア遺伝子変異で説明できるのかも未知です。そこで私たちは、ヒトのがんにおいてこれらの点を追及して行こうと考えています。もし、たとえ一部のがんにおいてでもその関連が明らかになれば、転移の予防や予測さらにはがん治療にとって非常に重要な知見になると思われます。



■図2
病因性ミトコンドリア遺伝子変異 (G13997A) による転移能の亢進のメカニズムと抗酸化剤によるその抑制



新生代の貝形虫類 (節足動物甲殻類)の 古生物学

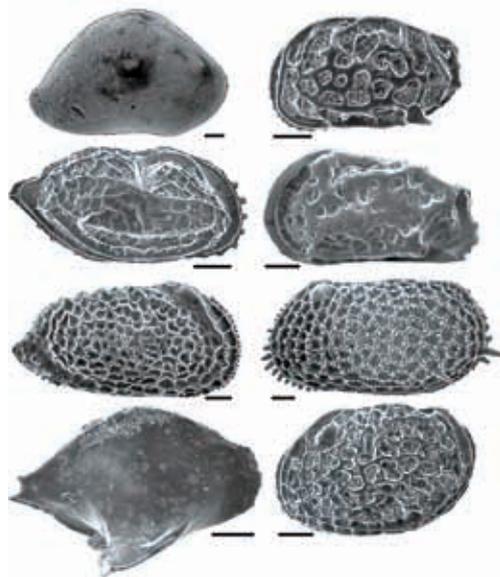
総合理工学部 地球資源環境学科 准教授
入月 俊明

古生物学は一般に化石を対象にする学問領域です。化石は過去の生物の遺体や生活痕などが地層中に保存されたもので、生物進化の直接的証拠という役割のみならず、古環境や地質年代を推定する役割も持っています。通常、化石というと恐竜、アンモナイト、貝類などの大型動物を連想すると思いますが、私が主に対象としている化石は、顕微鏡を使わないと種が判別できない微小な化石(微化石)である貝形虫(貝形類、貝虫、カイミジンコ、オストラコーダ)という動物です。貝形虫は、体長0.5mm前後の小さな節足動物甲殻類(カニやエビなど)の仲間、古生代初期のオルドビス紀(約5億年前)に出現し、現在まで深海、浅海、内湾、潟湖、湖沼、河川、田んぼ、湿地などのあらゆる水域の主に底質や海藻上に異なる種が適応し、世界中で繁栄してきました。二枚貝と同じように、左右二枚の炭酸カルシウムの外殻を持ち、外殻の中に付属肢や生殖器などからなるエビのような形をした動物体が収められています。外殻は化石(遺骸)として世界各地の堆積岩層(堆積物)から多産します。最近、琵琶湖で11種ものカイミジンコの新種が発見された記事が新聞に載り、話題になりました。また、発光するこ

とで有名なウミホタルもこの仲間で、ウミホタルは先日ノーベル化学賞を受賞されたボストン大学名誉教授・下村脩さんが最初に生物発光物質の研究対象として扱っていた生物です。

私はこれまで、新生代(約6500万年前～現在)を通じた、貝形虫化石群集の変遷や種の進化過程を研究してきました。また、貝形虫は生息場の違いによって明瞭に異なる群集が認められますので、示相化石(古環境の復元に役立つ化石)としても有用です。そこで、貝形虫化石(遺骸)により、過去の環境変化を復元・解析し、未来に起こる環境変化を予測するため研究を行ってきました。その中で、最も新しい第四紀の環境変遷に焦点をしばった研究を次に紹介します。

日本沿岸の平野部の地下には、厚い泥層がよく発達しています。これらの多くは縄文時代の温暖化により海面が上昇し、発達した浅い内湾の堆積物です。この泥層からは非常に多くの貝形虫化石が産出します。貝形虫のような微化石はサイズが小さいため、少量の試料でも大量の個体が得られます。そこで、量の少ないボーリング掘削試料を用いて古環境を復元するには好都合です。実際には、数～数10gの堆積物から泥成分を除去した後、標本を抽出し、顕微鏡を用いて種を決定し、数量的に解析します。さらに、種々の堆積物分析の結果とあわせ、過去1万年間、いつどのように海面上昇や地震・津波イベントによる内湾環境の変化が起きたのかを復元しました。このような自然現象による環境変化の他にも、最近の100年間の人為的活動による環境変化を、貝形虫によって詳細に復元できることがわかりました。すなわち、都市部に面した瀬戸内海などは、1940年以前、種や個体数が多い豊穡な海域だったのですが、1940年代以降、富栄養化を始め、1960—70年代の高度経済成長期に個体数と種数が激減し、溶存酸素が少なくても生息できる特定種のみか、あるいは、貝形虫そのものが全く生息できない条件を持つ環境に変化したことがわかりました。その後、1980年代から、様々な環境対策が行われ、水質環境は改善傾向にあるのですが、底質環境は改善されていないのが現状です。このような解析を通じて、内湾域においていつのどのような環境が望ましいのかを明らかにし、どのような環境改善策を行うと小型底生動物が復活するのかを解明しようと試みています。



様々な表面装飾や外形をもつ海生貝形虫の化石(外殻)の電子顕微鏡写真
右列の種は左殻(向かって左が前部、右が後部)で左列の種は右殻(向かって右が前部、左が後部)。スケールバーは0.1mmを示す。



機能性無機材料による 排水からのリン除去・回収・ 再資源化技術の確立

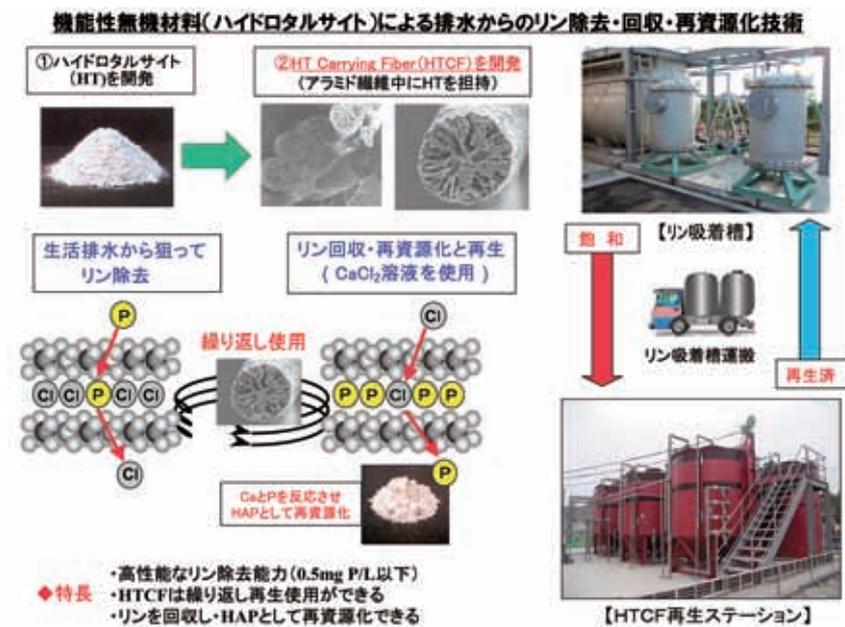
生物資源科学部 生態環境科学科 教授
佐藤 利夫

宍道湖や中海のような閉鎖性水域に栄養塩（主に窒素・リン）が流れ込むと、これを利用して植物プランクトン（アオコ・赤潮など）が大量に発生し、景観を害したり、悪臭の原因となったり、水産業にも打撃を与える「富栄養化現象」が起きます。特にリンは少量でも富栄養化を進めてしまうことから「富栄養化の制限因子」とされ、リンの流入を大幅に削減できれば富栄養化は防止できます。その流入源の約60～70%が実は生活雑排水なのです。一方、リンは植物の3大栄養素（リン・窒素・カリウム）の一つであり農業には欠かせない肥料です。日本にはリン資源が全く100%輸入に頼っており、年間約90万トン輸入され、その約80%が農業に使われています。世界のリン資源量は約150～180億トンであり、年間1億から1.5億トン採掘されさらに需要が伸びていることから、約60～100年で枯渇すると予測されています。実際にリン資源を持つ米国や中国は将来を見据えて輸出を止め始めており、リンの値段が昨年よりも5倍に高騰したとの報道も新聞等でされています。日本ではリン資源の確保が近い将来大きな問題となるでしょう。

私の研究は、「富栄養化とリン資源枯渇問題を同時に解決」する技術を開発することです。

資源的観点から見ると生活排水はリン資源です。私

は生活排水からリンを除去し富栄養化を止めると同時に、除去したリンを回収し資源化するためにハイドロタルサイトという化合物を開発しました。ハイドロタルサイトは土壤中に存在する層状粘土鉱物の一つであり、サンドイッチを積み重ねたような構造をしています（図1）。その具の部分に塩化物イオン（Cl⁻）を入れておき、これが水中のリン酸イオン（PO₄³⁻）と交換しリンを除去します。この具が入る部分の中をリン酸イオンにぴったり合わせてあり、大きすぎれば入れず小さすぎれば出て行ってしまうので、リン酸イオンのみを狙って除去できるわけです。シンデレラの靴のイメージですね。またリン酸イオン吸着後は塩化カルシウム（CaCl₂）溶液に浸し塩化物イオンを再び入れ直せばリン除去能力を再生でき、また出てきたリンはカルシウムと反応させ肥料原料であるリン酸カルシウム（HAP）として回収できます。さらに現在ではハイドロタルサイトを繊維中に大量に担持させた吸着材（HTCF）を開発し、産学連携の一環として地元企業と共同開発した実用プラントも設置しています。この技術により、富栄養化とリン資源の枯渇問題を同時に解決できればと願っています。（本技術開発により、経済産業省：中国地域産学官コラボレーションセンターより、共同研究・技術移転功労賞を受賞しました。）



報道された島根大学

【2008年10月】

- 6日●談論風発 島根大学法文学部准教授 片岡佳美（山陰中央）
●ジャズ喫茶で限定ライブを開いた島根大生の大原佳子さん（山陰中央）
- 8日●三人の夢追い人 島根大学放送サークルが運営する「インターネットラジオ」でDJを務める法文学部の神田絢子さん（山陰中央）
- 10日●島根大 入学金・授業料の特別免除制度を法科大学院に創設（山陰中央）
- 11日●石見銀山遺跡 島大生無断で岩石採取（山陰中央・読売・産経・毎日・中国・朝日）
●島根大旧奥谷宿舎のゆかりの人物を紹介するワークショップ開催（山陰中央）
- 12日●島根大で地域情報などを配信する「島根ユビキタスプロジェクト」が実験放送（読売）
- 15日●島根大学・寧夏大学国際共同研究所の顧問 保母武彦 島根大名誉教授 中国・銀川市「荣誉市民」受賞（山陰中央）
- 16日●島大生を安全協力員に川津周辺で防犯活動 松江署委託（山陰中央）
●島根大が来年度入試要項発表 一部定員削減 推薦枠を増（山陰中央）
●島根大発ベンチャーSORA 障害者支援ソフト開発（山陰中央）
- 17日●島根大附属病院で入院中の子らを元気づけようと自転車乗りロボ訪問（読売）
- 18日●島根大学で「松江の魅力とまちづくり」 松浦市長が学生に講義（山陰中央）
- 19日●あしなが募金 島根大の奨学生ら協力よびかけ（読売）
- 22日●島根大学医学部の学園祭「くまびこ祭」開催（山陰中央）
- 23日●島根大大学院法務研究科来年度入試 成績優秀合格者の授業料免除（毎日・朝日）
●「アメリカのラフカディオ」島根大附属図書館と実行委員会などが企画のシンポジウム開催（山陰中央）
- 25日●島根大旧奥谷宿舎の基金寄附が苦戦 協力呼び掛け（山陰中央）
●キャンパス通信 島根大学放送サークル マイク通し

- 26日●島根大院長「学生でつくる邑南町活性プロジェクト」の立ち上げを発表（山陰中央）
●島根大でJAXAから講師を招いた「宇宙授業」があり同大付属小、中学生が参加（山陰中央）
- 27日●談論風発 島根大学法文学部准教授 加川充浩（山陰中央）
- 28日●島根大 男女共同参画推進室を開設 女性研究者育児との両立支援（山陰中央）
●島根大学医学部と県は意見交換会を開き医師確保へ連携（山陰中央・朝日）
●松江で中国地方建設技術開発交流会 島根大の佐藤利夫教授が助言（山陰中央）
●島根大とJAXAが協定 日本初宇宙教育を推進（山陰中央・読売・中国・日刊）
- 30日●島根大大学院医学系研究科県と協力し「地域医療支援コーディネーター」を養成（山陰中央）

【2008年11月】

- 2日●ISO取得の島根大 環境改善活動に成果（山陰中央）
- 3日●談論風発 島根大学准教授 奥谷 健（山陰中央）
- 8日●地域とつながるキャンパス通信 島根大と島根県立短期大学部で「プレパーク」を企画・運営（山陰中央）
- 9日●ひと 中四国医学科学生バスケットボール大会で MVP に輝いた島根大3年 服部晋明さん（山陰中央）
- 15日●県防災ヘリ 医療充実へ県と合意 島根大病院の医師同乗（山陰中央）
- 16日●「中海の自然再生を目指すシンポジウム」 島根大教授ら研究成果発表（読売）
- 16日●島根大研究チーム「がん早期発見に役立つ「酸化亜鉛ナノ粒子」の開発に成功（読売、19日には山陰中央・読売・朝日・毎日・産経・中国）
- 22日●キャンパス通信 島根大献血推進サークルぐっぱ 知恵出し合い協力訴え（山陰中央）
●島根大学の研究プロジェクトチーム「ナノテクノロジー」を使い蛍光剤開発（日経）
- 27日●島根大の研究・技術テーマや成果を地元企業に紹介する産学官情報交換会開催（山陰中央）
●島根大の男女参画推進の取り組みをJICA研修生が学ぶ（毎日）
- 28日●島根大附属病院で火災時の患者搬送訓練（山陰中央）

【2008年12月】

- 1日●談論風発 島根大学法文学部准教授 毎熊浩一（山陰中央）
- 3日●「高大接続教育フォーラム」が島根大で開催（山陰中央）
- 4日●高大接続教育研究の実践 島根大学の学生が高校生に島大生活紹介（山陰中央）
- 6日●島根大学の学生が「木次の歩き方」を紹介する冊子を作成（山陰中央）
- 8日●島根大学医学部の学生 妊婦などを対象に乳児BLS勉強会を開催（山陰中央）
- 9日●島根大学法文学部 野田哲夫教授が「松商だんだんドットコム」について特別講義（山陰中央）

本学は地域とともに発展を目指す大学として、地域の皆様に本学の活動内容等をご理解いただくため様々な情報を発信していますが、ここでは、本学関係で昨年10月から本年2月までの間に新聞報道された内容をご紹介します。

10日 ●島根大学とジェットロ松江

「米国から学ぶ『産業育成』と、これからのビジネスチャンス」をテーマにセミナーを開催(山陰中央)

11日 ●島根県立大理事長兼学長に本田・島根大学長を選出(山陰中央・読売・毎日・朝日・中国)

14日 ●古絵図で散策 護蒲池案内 島根大学法文学部准教授 小林准士(山陰中央)

17日 ●島根県が島根大医学部など医師派遣計画に助成金(山陰中央)

19日 ●島根、岡山、香川大学の三つの法科大学院 共同化検討(日経、21日は山陰中央)

21日 ●島根大医学部と島根県教委が連携し新事業「夢実現進学チャレンジセミナー」(山陰中央)

●「地域活性化学会」島根大も参加し学会設立(山陰中央)

22日 ●島根大が主催「子供ミュージアム体験教室」(朝日・産経)

23日 ●島根大新学長に山本副学長選出(山陰中央・毎日・朝日・中国)

24日 ●ワクチンでがん治療 島根大など全国61施設でネットワーク(山陰中央)

4日 ●島根大学が県地元企業と連携 国内初のトンネル照明のLED製品開発に取り組

【2009年1月】

7日 ●女性研究者増へ 島根大・男女共同参画推進室の「キックオフセミナー」開催(山陰中央)

8日 ●島根大学の水泳部 大橋川で恒例の寒中水泳(山陰中央)

10日 ●キャンパス通信 児童文化研究班(島根大) 子どもと遊び読み聞かせ(山陰中央)

11日 ●島根大学に通う留学生 日本文化に触れる「そは打ち体験教室」(山陰中央)

11日 ●病院の実力【島根編】 島根大医学部附属病院耳鼻咽喉科 片岡真吾医師(山陰中央)

15日 ●島根大医学部 来年度、大学院修士課程に「地域医療支援コーディネーター養成コース」開設(読売)

16日 ●島根大が雇用対策 失業者を臨時雇用(山陰中央・読売・朝日・産経・中国)

18日 ●大学入試センター試験 島根大学松江キャンパスなど島根4会場で実施(山陰中央・産経)

24日 ●パレスチナ問題理解を島根大で学習会 島根大男女共同参画推進室 清末講師(山陰中央)

●キャンパス通信 いとまき(島根大) 手話学び地域と積極交流(山陰中央)

25日 ●「再生肥料」の利用促進島根大でセミナー開催(山陰中央)

28日 ●がん対策シリーズ(1) 切らずにがんを治す 島根大医学部附属病院 内田伸恵教授(山陰中央)

●山陰の夢追い人 島根大出身のアメフト女子プロ選手 小倉典子さん(山陰中央)

29日 ●島根大学緊急雇用対策 5人採用(山陰中央)

●島根大学学生支援センターを新築 4月から業務を開始(中国)

【2009年2月】

1日 ●島根大学ミュージアム市民講座 同大法文学部廣嶋清志教授が講演(山陰中央)

●病院の実力 島根編 島根大学医学部附属病院放射線治療科 内田伸恵教授(読売)

2日 ●談論風発「出雲おろち大根」 島根大学生物資源科学部 小林伸准教授(山陰中央)

●島根大学医学部「内視鏡手術トレーニングセンター」を設置(中国)

4日 ●島根大学松江キャンパス廃液処理中、硫化水素発生 2,000人避難(山陰中央・朝日・読売・毎日・産経・中国・日経)

●島根大学医学部は新生児マスキングの新検査法「タンデムマス」の効果

5日 ●島根大学医学部附属病院「消化管内視鏡システム」を新たに導入(産経)

●しまね拡大鏡 島根大でパレスチナ問題講演 島根男大共同参画推進室 清末愛砂講師(毎日)

6日 ●島根大・合同会社説明会 企業辞退相次ぐ 地元47社は予定通り参加(山陰中央)

7日 ●島大生が島根の農産物「応援」大阪の商店街で産直店を開店へ(山陰中央)

8日 ●古絵図で散策 城下町案内人 小林准士・島根大学法文学部准教授(山陰中央)

●島根大学医学部附属病院、山陰初 内視鏡手術の訓練センター整備(山陰中央)

10日 ●島根大学医学部附属病院長に小林祥泰病院長の再任を発表(山陰中央・朝日・読売・中国)

11日 ●島根大学医学部附属病院 防災施設兼用立体駐車場整備へ 災害時は「病棟」に(山陰中央)

●島根大学法文学部経済分野の学生 10日に卒業研究報告会(山陰中央)

13日 ●LEDを使った国内初のトンネル照明製品開発に取り組み島根大学 照明試作器の実証実験報告会開催(山陰中央)

14日 ●島根大で初の面接特訓 雇用漂流(山陰中央)

15日 ●島根大学ミュージアム市民講座 島根大法文学部田中教授が講演(山陰中央)

19日 ●島根大学附属病院 新病棟建設工事始まる 2011年6月完成予定(山陰中央)

20日 ●島根大学志願者数大幅に増加 「地元、国公立」志望強まる(山陰中央)

21日 ●キャンパス通信「BSS(島根大)」更生保護施設で「寺子屋」(山陰中央)

●島根大研究グループ「ギンバ」高濃度白米開発に成功(山陰中央)

23日 ●談論風発 始まる教員免許更新制度 島根大学教育学部長 高岡信也(山陰中央)

●島根大学教育学部・作野准教授が独自セミナー(中国)

25日 ●島大生が受験生を迎え 道案内や相談心じる(山陰中央)

27日 ●島根大旧奥谷宿舍の改修費 大学運営資金で補てん 9月末完成目指す(山陰中央)

●来年度からの教員免許更新制 島根大の開講講座の概要固まる(山陰中央)

28日 ●島根大学医学部附属病院の「ほっとサロン」 学生も参加し和やかに(山陰中央)

●がん対策シリーズ 島根大医学部附属病院腫瘍センター石倉浩人センター長(山陰中央)

木村茂夫	木原淳一	木野明子	杵築弘宗	城戸通彦	吉川新二	北山清士	北山裕市郎	北谷利道	北田与志照	北里房義	北井睦治	木曾雅之	岸原健司	木下芳一	岸井正憲	菊池智之	菊池宗平	菊岡祐一	桔梗正孝	桔梗和枝	木上猛夫	神庭賢一	神田智智	神田賢司	神田俊俊	川本謙一	川向誠剛	河原浩一郎	河原淑秋	川西昭昭	川那博子	河津啓義	川津愛子	川田信行	川添義一	川瀬俊男	河崎義輝			
兒玉惠博	小谷征夫	小數賀仁也	古城幸夫	越野和治	小坂芳裕	小坂比呂志	古原千惠子	江原理平	桑原文次郎	桑原宏之	黒田弘之	黒崎章一	栗田章一	栗栖明生	蔵増春樹	倉橋金次郎	倉井正喜	倉米栄一	熊取栄一郎	熊谷照恭	久保田高生	久保田康毅	窪澤真一	久野三慶	久野忠男	國田秀伸	國井加代子	国藤宏子	工藤伸治	楠開康弘	草開康弘	日下重坦	桐村喜子	清洲信夫	木元雅俊	木村誠子	木村敏子	木村高司		
坂本昌士	坂本雅邦	坂本丈夫	坂本滋郎	坂野百合勝	坂田太郎	坂口淳一郎	坂三惠子	境井英俊	齊藤雅信	齊藤修省	齊藤重徳	齋藤健児	齋藤喜美江	齋藤良司	近藤揚輔	近藤和男	小割百合子	木幡修介	小幡安正	小松義昌	小林裕太	小林秀行	小林秀雄	小林治郎	小林信裕	小林祥泰	小林昭三	小林准三	小林定教	小林健和	小林達也	小沼伊都子	後藤裕二	後藤郁則	小玉正雄					
清水兼男	島田政嗣	嶋江政喜	洪谷紘聡	柴田午郎	柴田久美子	篠田美子	篠田猛	地土井襄壘	穴戸俊夫	穴戸邦明	重康敏明	重元良夫	塩原弘潔	塩野直也	塩田銀三	佐川幸一	佐野伸一	佐野和夫	佐藤幸雄	佐藤真知子	佐藤均昭	佐藤利昭	佐藤近義	佐藤秀一	貞弘滋夫	佐々木幹法	佐々木直甫	佐々木樹孝	佐々木ケイコ	佐々木和彦	作野広幸	崎村政幸	崎田俊彦	佐川敬一	佐川英輔	相良英輔				
清野孝至	清木幸治	須山富士夫	住田光成	澄川莊三	角藤義弘	周藤憲正	周藤雄一	須田正亨	鈴木武人	鈴木巖	鈴木悦子	杉山教一	杉山邦太郎	杉元明	杉和子	末吉幸造	末田雄幸	新屋秀助	新宮多加志	新宮修	塩川邦憲	白岩幸枝	白鹿千寿	白石美代子	正田宗雄	正田弘樹	昌子信卓	城野洋一	城野悦郎	車村好之	下村修夫	下村貞夫	下川貞夫	清村義純	清水修一	清水純一				
田口眞明	柘植健二	瀧谷陽子	高山満里子	高山克己	高山祥子	高山ユリ江	高橋真寿美	高橋正訓	高橋矩文	高橋忠郎	高橋志敏	高橋興一	鷹野主務	高塚謙寛	高田裕行	高田晃平	高田佳奈夫	高尾節子	高尾源誠	大門節也	園山哲也	園田了司	曾田弘喜	曾田悟	曾田仇正	曾田晃	曾田陽子	宗田万洲生	薦田久仁男	仙田正守	仙田久仁男	世田守	節田誠二	瀬田雅也	瀬田浩一	盛山正義				
田中三雄	田中規	田中富士夫	田中秀己	田中俊幸	田中俊英	田中俊夫	田中星正	田中澄一郎	田中弘夫	田中和夫	田中薫	田中明	田中章	田中盟	伊達清之	橋本空	橋本昭弘	多々納郁彦	田江泰浩	田子智浩	田子幸美	竹本和彦	竹本國彦	武部昭美	竹部智雄	竹原敏夫	竹原三男	武田仁男	武田正之	武田英男	武田久男	武田健作	竹下博昭	竹下忠昭	竹内應之	竹内準治	井克治			
土屋敏章	土田隆公	土田隆治	津田昭雄	津田彌一	辻本信夫	辻哲子	辻恵清	築谷俊之	築山耕三	塚本正秋	塚本隆幸	調枝勝夫	千原真明	千木宏一	反納新介	檀野敬一	為石ちづる	田村昌史	田村のり子	田村邦彦	田池寛光	玉井良子	玉井洋悟	田野聖一	田野忠美	田野晴男	谷山鉄郎	谷本耕造	谷川憲治	谷川充尚	谷川佳子	田邊重一	田邊良樹	田中芳樹	土屋涼一					
永岡潤吉	長岡茂樹	永尾啓三	中尾征三	中尾仁治	長尾清步	永江祥夫	中井泰節	永井節中	内藤正猛	鳥居吉彰	外山和哉	友田勝	友田口	友田幸一	富田精一	富田郁子	土肥將彦	戸田美奈子	登田誠武	徳島政隆	砥野清作	梅井晃隆	土井修一	寺脇敬治	寺戸敏昭	寺島昭夫	出井昭郎	坪倉修吉	坪倉尚子	鏑木篤子	津庭智義	常松正雄	常松正雄	恒松之郎	堤四郎	土屋涼一				
中山祐昭	中山生	中元裕	中村浩和	中村志保子	中村健悟	中村克己	永見恭一	永松幹夫	中原伴秋	西林吉志	林康範	野村宏彦	野村康彰	野村義彰	野永彰	野務昭明	中谷隆二	長田愉子	永田宗広	永田まちな	中田寛	中田弘充	中田三仁	中田島寛	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜	中田島喜		
野津三郎	野末源一	野崎善知	野崎誠康	野崎憲二	乃木章子	沼田喜久江	仁宮浩通	新田法明	西山光男	西山温仁	西山輝彦	西山行夫	西山義彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰	西山典彰

第2回ホームカミングデーを開催

島根大学では、10月11日に同窓会連合会と共催で「第2回ホームカミングデー」を開催しました。このホームカミングデーは、卒業生の皆様に現在の島根大学の様子や教育・研究・医療等の活動状況を理解していただくとともに、同窓生同士の交流又は在学生との交流の機会としてもらうために昨年度から始まったもので、歓迎式典、キャンパスツアー、特別講演会、各学部同窓会主催事業などを実施しました。



学長歓迎挨拶



原拓也氏によるテノール独唱



伊藤理以氏による特別講演

そして、本学卒業生で国内外で活躍されているテノール歌手 原 拓也氏（ピアノ：原 由香さん、拓也氏の奥様で本学卒業生）によるテノール独唱では、島根大学歌「天高く」、「帰れソレントへ」などのほか、旧制松高寮歌「青春の歌」も披露されました。

また、特別講演会では、岩谷産業株式会社執行役員、広報・社会関連部長 伊藤理以氏（本学農学部卒業生）による「島根の偉人 岩谷産業創業者「岩谷直治」の人生哲学について」と題した講演が行われました。

なお、歓迎式典に先立ち、同窓会連合会の役員会を開催し、来年度の活動計画等が決定されました。

また、特別講演終了後には各学部同窓会等の懇親会が場所を移してそれぞれ行われました。

お知らせ

開学60周年事業を計画

島根大学では、旧島根大学（統合前の島根大学）の開学60周年を迎えるにあたり、本年10月に記念事業を計画しています。日時等の詳細については、決定次第にお知らせします。なお、この事業に合わせて、本年度のホームカミングデーを開催することとしています。

旧奥谷宿舎の改修計画が決定

島根大学の旧奥谷宿舎の改修計画が決定し、本年9月末の完了予定で改修工事が始まることとなりました。本年10月にはお披露目ができる予定です。



外部は、鉄板葺きの屋根を瓦葺（近似瓦）にて復元するなど、東外面（正面）を中心に建設当時に復元するほか、内部は、1階に展示室を3部屋、2階に資料室を2部屋設置することとなっています。

島根大学ホールの整備に着手

学生の就職ガイダンス、セミナー、研修会、研究会等を開催する多目的ホールとして、教養講義室の100番教室を改修し、島根大学ホールとして整備することを計画しておりましたが、本年9月末の完成に向けて工事を開始しました。



投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。学内から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などお気軽にお寄せください。ご投稿をお待ちしています。

▼投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学総務部総務課まで
 Fax: 0852-32-0019 E-mail: isy-bunshyo@jn.shimane-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>